

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-152	14-010	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名（原題／訳）		
Alcohol-induced psychotic disorder: a review. アルコール精神障害：系統的文献レビュー		
執筆者		
Jordaan GP, Emsley R.		
掲載誌		
Metab Brain Dis. 2014 Jun;29(2):231-43. doi: 10.1007/s11011-013-9457-4.		
キーワード		PMID
アルコール精神障害、アルコール幻覚症、離脱せん妄		24307180
要 旨		
<p>目的： アルコール精神障害の実態については明らかにする。</p> <p>方法： アルコール精神障害の疫学、臨床特性、神経病理、治療について 1988 年から 2013 年に報告された 25 件の文献レビューを行った。8 件の前向き研究、8 件の後ろ向き研究、9 件の症例報告が含まれた。</p> <p>結果および結論： 近年ではアルコール精神障害は臨床的には離脱せん妄や精神分裂病と鑑別されることが多い。アルコール精神障害の頻度は 10%-37%と様々であるが以前の報告より高かった。また、他の精神疾患の合併、再入院、死亡率、自殺企図の率が高かった。近年は、アルコール依存症の幻覚には神経伝達制御の機能低下が関連しており、脳の様々な部位の血流異常が存在することが画像研究で報告されている。また、抗精神病薬による治療が現在も推奨されていた。アルコール精神障害の予後は以前の報告より不良であった。それでも、禁酒を継続できれば、予後は比較的良いとされていた。</p>		